



夏期は10月23日まで休まず開園しています

ASAHIYAMA Zoo

発行所
動物資料展示館
旭川市
旭山動物園
☎ 36-1104

外来動物展の現状展～

その先に
見えるものは・・・

10月23日まで動物資料館にて開催中！

外来動物って？

もともとそこにはいなかったのに、人によって連れてこられたり、やっきた生き物のことを言います。「え！こんなものが？」という身近な生き物が実は外来動物であったりするので。ちなみに、ここ数十年の間に本州から持ち込まれたカブトムシは北海道では外来動物です。



こちらはガイドツアーの様子です
不定期にて実施中

動物資料館1階では、外来動物展を行っています。今年で4回目を迎えました。動物園では今自然で起きている事実を皆さんにもっと身近に感じてもらえるよう、熱い思いを手作りのパネルで伝えます。動物資料展示館1階にて10月23日まで開催しています。どうぞお越しください。

外来動物がやっくるぞ どうして問題なの？

寒い地方や暑い地方・森林や海辺など、それぞれの場所です。それぞれのルールがありま。そのルールのもと、動物たちはそこで生きて食われるの調和を保って生活しています。しかし外来動物はその地域では通用しない他の地域のルールをもってやってきます。これが問題なのです。たとえば、皆さんがサッカーの試合をしているときに、ゴールキーパーでもな人が突然、ラグビーのようにボールをもって走り出したら、その試合はめちゃめちゃになってしまいませんか？

大食・ルール破りのアライグマ

外来動物の1つ、アライグマの出現でも北海道の自然は影響をうけています。アライグマは昆虫や果物・農作物など何でも食べてしまう食欲旺盛な動物です。そのうえ、木に登ることができると、どんな所のエサでも食べてしまいます。すると、それまで樹上には天敵もありません。また、人間までもが農作物の被害を被り大きな問題となっています。人間でも対応しきれないような問題が外来動物が来ることで起こることがあります。



もともといる生物と外来動物を見比べることができるよ。

左からニホンザリガニ・アメリカザリガニ・ウチダザリガニです



大きさは歴然。もし、エサの取り合いになったら・・・ニホンザリガニの危機を感じます

外来動物が入り込んでしまった後に、環境を元に戻すことはとても難しいことです。けれど、外来種をこれ以上増やさないようにすることは、みなさんもできることではないでしょうか？その一つに飼ったペットは最後まで面倒をみるということです。飼っているアメリカザリガニを手放す時に、自然に返そうと近くの池に放すのは

病気の流行の危険性なども！

他には病気の問題も深刻です。下の写真は毛の抜けてしまったタヌキです。人に捨てられたペットが野生動物の生活区域に入り込み、持っていた病原体を移してしまいました。野生動物から人に移る病気の流行も心配されます。また、雑種が生まれ、純粋な種が絶滅してしまうおそれも考えられます。



これから、どうしたらいいんだろう？

やさしさのようにも聞こえます。けれど、ちよっと考えてみて下さい。その放した環境にもともと生活している生き物がいることを忘れてはいませんか？最近の昆虫ブームで、数々の外来動物が私たちの身の回りにやっけています。ここにも自然を脅かしてしまふほどの力が潜んでいます。それを食い止めることができるのは皆さん一人一人の正しい知識と心がけなのです。私たちは、この自然の危機ともいえる現状を皆さんにお伝えするために、この展示会を開きました。お金の犠牲になる動物を少しでも減らし、本来の日本の自然を残していきたいです。



クイズラリーの問題は資料展示館にて！

園内の外来動物を観察しながら、問題を解き明かしましょう！参加された方の中から抽選で旭山ならではのプレゼントをお送りします